



中部横断自動車道八ヶ岳南麓 新ルート沿線住民の会ニュース

No.14 2014年10月10日 発行

これからの段階に向かって

今、八ヶ岳南麓は稲刈りも終わろうとしています。特Aの評価が付いた梨北米。晴れた日にはその稲刈りの向こう側に八ヶ岳がそびえ立っています。秋の空は青が深く、八ヶ岳南麓の金色の稲穂と真っ青な空が映し出す風景は言葉には表せないほどの美しさです。

私たち沿線住民の会も様々な方向に運動の広がりを見せています。北杜市のさまざまな問題に取り組んでいる団体との交流。そして、リニア中央新幹線の問題、山梨環状道路の問題に取り組んでいる方々との交流。道路住民運動全国連絡会の大会に参加など、多くの方の意見を聞きながら、関東地方小委員会後も次の段階を見極めながら活動を展開しています。

私たちの運動は次の段階に向かいつつあります。その運動の大きな味方になってくれるのがこの八ヶ岳南麓と、各方面からの皆さんの励みです。八ヶ岳南麓の豊かさをどう皆さんに訴えていくか。言葉で簡単に言い表せない景観は人によって日によって感じ方が違うものです。小淵沢から高根や明野まで途切れることのない自然は、場所によって時間によって表情を変えます。自然を守り次世代に渡すことこそ私たちの運動の広がりを考える

上で重要なのではないかと考えています。

関東地方小委員会で石田東生氏がこの八ヶ岳南麓について『ユニークな自然と』発言したことをとって、誰もが認めるこの素晴らしい自然と景観、それを高速道路建設によって壊してしまっているのでしょうか。今臨時国会では、国土強靱化という政策のもとでの公共事業の大盤振る舞いに批判的な質問も多く出ています。1000兆円にも届こうとしている日本の国債残高、これは1人当たり800万を超える借金を次世代に押し付けることにもなります。

この国とこの八ヶ岳南麓を重ね合わせるとき。巨額な借金と、自然を引き裂いて無残に残った高速道路が想像できるのは私たちだけではないはずで

八ヶ岳南麓の自然・景観を守ろう

中部横断自動車道の幅1キロのルート帯は八ヶ岳南麓の中央を切り裂く案です。私たちが暮らしている自然環境と日頃見慣れている景観を台無しにする最悪のルートと言えます。私たちは、八ヶ岳南麓を皆さんと一緒に守り抜こうという思いを更に強めています。『この八ヶ岳南麓には高速道路はいらない』というスローガンに一步でも近づけるように、ともに力を合わせて進んでいきましょう。



ステッカー増刷しました 1枚200円



中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会運営委員会
 <連絡先> 佐々木郁子 0551-47-6260
 郵便振替 八ヶ岳新ルート住民の会 00220-7-050803
<https://sites.google.com/site/odandonewroot/oshirase>
 e-mail: nanroku2899@gmail.com

9/29 関東地方整備局へ抗議・要請行動

計画段階評価の精査と ルートの正式決定をしないよう要請

7月23日に開催された関東地方小委員会で公正な審議もされずに中部横断道のBルート案が了承されたのを受け、9月29日、沿線住民の会は下井出東組高速道路反対対策委員会とともに埼玉にある関東地方整備局を訪れ、抗議と要請を行いました。関東地方整備局からは、計画第1課吉田課長補佐が対応しました。沿線住民の会・東組高速道路反対対策委員会からは、中部横断道の長坂～八千穂の計画段階評価の手続きは、アンケートの恣意的な集計に始まりワーキンググループに提供された資料が改変され、地元説明会での意見の集計が作為的にねじ曲げられているなど手続きに重大な瑕疵があり、その責任は道路局企画課と関東地方整備局、甲府河川国道事務所にあることを指摘して抗議しました、そしてこれまでの経過を精査して道路局が作成した「道路計画策定プロセスのガイドライン」に沿った適切な手続きを取るよう要請しました。また再度、複数のルート案の提示とそれを比較検討することのできる幅広い住民協議の場を作って問題の解決を図るよう要請しました。吉田課長補佐は、「関東地方小委員会の結論は受けとめたが、手続きとしてはまだ対応方針は決定していない。現在は概略計画の検討の準備をしている。環境影響評価をどういうふうにするかも検討中。」と発言しました。そして今後も沿線住民の会、東組をはじめ住民との話し合いを継続していくことを表明しました。



関東地方整備局にて

「曇りないまなこで未来を見定める」

第40回道路住民運動全国交流集会に参加して

道路住民運動全国連絡会の全国交流集会が10月11日、12日の二日間、横浜市栄区にある県立「あーすぷらざ」で開催され、46団体211人が参加した。沿線住民の会からは3名が参加した。

第一日目は、①岡山から地域高規格道路・美作岡山道路、②九州豊前市から東九州自動車道、③川崎国道1号線13年の闘い、④川崎「大気汚染公害」、⑤中部横断自動車道、⑥横浜環状南線など各地6団体からの報告があった。

夜は「あーすぷらざ」内のレストランで懇親会が開かれた。地域ごとに全参加者がひとこと述べ合い交流を深めあった。

二日目は、道路全国連・橋本事務局長の基調報告で始まった。「正義を掲げて闘う」「力のない正義では勝てない」「曇りのない眼で未来を見る(もののけ姫)」などの言葉が強く印象に残った。

「これからの日本」と題した中央大学の米田貢教授の記念講演は、経済学者からみた、安倍政権の経済政策・アベノミクスがいかに欺瞞の満ちたものであるかを具体的なデータで示した。

午後の「道路運動40年、これから」と題してのパネルディスカッションは「どうして道路運動は勝てないのか」に話題が集中した。道路訴訟ではないが、最近の大飯原発福井地裁判決、泉南アスベスト勝訴裁判、福島原発自死事件勝訴判決など、実質勝訴の判決は、住民訴訟に明るい展望を与える。裁判を支えるのは住民運動と世論であり、運動の継続こそが重要だ、との指摘が印象的であった。

全国で繰り広げられてきた道路住民運動の成果は必ずしも納得のいくものばかりではなく、むしろ厳しい闘いの連続である。それでも、全国各地からの苦労話や経験談、「60、70はまだ若手」などの多くの声に鼓舞され、勇気づけられた集会であった。

(草野)

道路全国連 橋本良仁さん学習会

「横断道工事を止める」は幻想か

「体験から言えば公共事業は止めることはできない。全国的に見ても公共事業を中止に追い込んだ運動は未だかつてない。反対運動はせいぜい、その事業を遅らせる事くらい」——道路住民運動全国連絡会事務局長橋本良仁さんは2014年9月20日の会合でこう切り出した。今、中部横断道反対運動をしている僕らの面前でのこの挑発的な、そして刺激的な発言！そこには甘さは一切無い。クールと言えばクール。いささかの幻想もない。何ともやるせない気分、「これからが正念場だ」と思う僕にとっては銚先を挫かれてしまったかのよう。一方で、ふとした安心感が出て来たのも紛れも無い事実。小さな、でも現実的な展望が、果たしてこれが展望なのかしらという疑問と共にそこにある様に見えた。橋本さんの言葉を真つ当に理解するには僕にはまだまだ時間が足りないだろう。

もう一つの言葉、「遅らせている間に政権交代があれば、変化があるかもしれない」を聞いて、少し楽になったのだが、これは幻想ではないのか。クールな橋本さんでさえ、そう思うしかない、という事か。でも甘い！政権交代に期するなんて。「遅らせる」だけがスローガンでは最初から敗北宣言をしたも同然。僕には闘いの幻想——横断道工事を止める——が、それが紛れもなく、間違いなく、確実に、橋本さんが言う通り幻想に終わったとしても何故かどういう訳か手放したくない、必要な要素、エネルギーなのだ。しかし遅らせる事だって、運動の結果である事は事実。運動がなければ、遅れるなんて確かにあり得ない。成果と言えばそうかもしれない。でも矢張りこれでは寂しい。始めから遅らせる事だけを射程に据えた運動なんて聞いた事はない。どんな運動もそこからは出発しない。今、橋本さんが、挑発的発言をするのは中部横断道反対運動の現在の状況を踏まえているからだろう、と見た方が正確かも

しれないし理解はし易い。

どうしても気がかりな事がある。明野の処分場の事だ。あれも紛れもない公共事業。20年かけて、今やっと閉鎖に追い込んだ。だから、公共事業がいつも止められない、ということではない。橋本さんの認識とはズレがある。国ではなく、県の事業だからか。道路ではないからか。僕は中部横断道の反対運動に参加した時、そのお手本は身近な明野にあると思っていた。20年を覚悟するのか、お前には持続する志があるのか。ただ20年は結果であって、始めから期限があったわけじゃない。運動の積み上げの結果だ。やって見なけりゃ分かりはしない。

時々思う。どうして僕はいつも流れに抗うのかと。その流れに乗ってしまえばこんなに気楽な事はないのに。せめて一度で良いからお気楽になってみたい。一回その流れに乗って呑気に暮らしてみたい——。そういう時代を迎えるには結局今の流れに抗った先にしか見えて来ない、というこのパラドックス。抗って、これからも生きていくか。幻想が幻想に終わるのだとしても。

<高根町 阪田 誠>

シリーズ



八ヶ岳南麓のここが好き

埼玉に住み、東京で働く、週末は自然の中で過ごす。それが私たちの生活スタイルである。そんな生活を送るうちに郊外に拠点となる場所があったらどんなに楽しいであろうと、自然の近くで暮らすという夢を持つようになった。そんな時に縁があって出会ったのが北杜市高根町堤山だった。

1998年秋、静かな里山に山栗が落ちる音、落ち葉を踏む音、南アルプスに沈む夕日が錦秋の里山を美しく映していた。堤の地に立った時、私たちの夢みた場所は「ここだ」と感じた。

初めてキャンプをした日の朝、野鳥の鳴き声が頭上から降るように聞こえて驚いて目覚めた。夜、レインボーラインから堤山を見ると、大きなひしゃくが並んだ七つの星、北斗七星を見つけた時の感動。初夏には里山から田んぼにむかってホタル

の光が幻想的に照らしていた。里山の小さな大自然を見ながら、この小さな大自然とともに生きていきたいと願っています。

堤の山に小さな家を建てた時、たくさんの樹木を犠牲にしました。その分を規模は小さいながらも環境保全のため、自分の持っている里山の一部とその周囲のナショナルトラスト活動を自主的にやってきました。

堤山の近くを中部横断自動車道の計画がある。この道路の建設は環境破壊であり無理な開発事業であるとする。今あるものを大事に育む世の中であってほしいと願っています。 <永松太郎、幸子>

ステッカーを広めよう！

「八ヶ岳南麓を横断する高速道路に反対！」のステッカーを増刷しました。このステッカーを車などに貼り、まだ建設計画を知らない人たちや南麓にお住まいの方、そして全国のみなさまにこのかけがいの無い八ヶ岳南麓の自然と景観、里山を守ることの大切さをアピールしましょう。賛同して下さっている店舗等に置いてあります。

お問合せは沿線住民の会まで。



原稿を募集中！ あなたは八ヶ岳南麓のどこが好きですか？

「八ヶ岳南麓のここが好き」をシリーズでお届けします。原稿をお寄せ下さい。

10/8 中部横断道活用検討委員会

ルート・道路構造検討等は来年3月に中間報告

10月8日の中部横断道活用検討委員会では、まちづくりビジョンの具体化に向けたワークショップの提案が行われました。ワークショップは2種類で、その第1段階として11月下旬から来年2月中旬にかけ4回開催される予定です。

○関係者ワークショップ—公募：30人程度 産業、観光などの専門知識を持った人

「道路プラン」を取りまとめる

1. ルート・構造検討への与条件—ルート計画の配慮事項
2. インターチェンジのあり方
3. 道路構造のあり方など

○市民ワークショップ—無作為抽出、50人程度

「市民の取組プラン」を取りまとめる

1. 道路の周辺施設の在り方
2. 道路を活かす市民の取り組み

中部横断道活用検討委員会はこれらワークショップから提案された意見について審議し、来年3月下旬に北杜市長へ中間報告、その後第2段階のワークショップを重ね、平成27年度に最終報告する予定。このワークショップは、7月23日の関東地方小委員会でのBルートの了承を受けたもので、中部横断道やルートに疑問・反対の人は参加することができず、その意見も議論に反映されることはありません。またBルートで直接影響を受ける住民抜きの議論が進められるという危惧も大きなものがあります。ワークショップと活用検討委員会の結論は、現在国交省が進めている概略計画の検討—決定に際して大きな影響を与えるものになると思われるので、今後とも注視が必要です。

編集後記

沿線住民の会の活動を始めて2年目、いつの間にかに共同代表になっていました。(アハハ) なんの取柄もないのに、ほかの共同代表のみなさんに迷惑かけっぱなしの私ですが、今年はいろんなことがありました。もう10月中旬になりますが、みんな早いねえって言うんですね。

でも私にとっては10カ月だけど(実時間)、体感時間は5、6年経ってるような(フル実話)気がしています。すっごい長い。それだけ濃い時間を過ごしてるんだよって言ってくれる方もいますけど、今年も、あと2か月半もあんのって感じですよ。(ひっき)